



はんのう 民児協だより

発行/飯能市民生委員児童委員協議会

編集/広報委員会

事務局/飯能市福祉子ども部 地域・生活福祉課内

TEL(042)986-5081(直通)

悩み・不安を開示することの難しさ

ある民生委員のこんな思いから88号は始まりました。

私の3年間の民生委員活動を振り返ると、私から声をおかけしてご相談を受けたことが多く、直接ご自分から相談された方は、ほんの僅かでした。

「生きづらさ」をかかえている中でも、自分から声をあげることができる方は、声をあげた時点で、すでに解決（解消）への道を歩み始めることができます。

では、いろいろな理由で、なかなか声をあげることが難しい方は、どう支援していったらよいのでしょうか？これはとても大事なことであると思います。少しでも声をあげやすくするためには、困った時に相談できる場所を知っていることが、ひとつの力になるのではないのでしょうか。その中から自分にとって相談しやすい場所が見つかれば、一人でがんばり過ぎずに済みます。光も見えてきます。

この相談できる場所の情報の提供や、私達の住む飯能市が「助けて」と言いやすい地域社会となるように呼びかけることも「民児協だより」の大切な役目だと思っています。



体調が悪い時に

病院にかかるように



生活に悩んだり困ったりしたら 相談窓口を活用してみませんか？

*よりそいホットライン 24時間対応
[0120-279-338](tel:0120-279-338) つなぐ ささえる

*チャイルドライン 毎日午後4時～午後9時
18歳までの方 [0120-99-7777](tel:0120-99-7777)

「ひきこもり」推計146万人 内閣府調査

3月31日に発表された内閣府の調査でひきこもり状態にある人が全国で推計146万人であることが明らかになりました。ひきこもりになった主な理由の1つとして、およそ5人に1人が「新型コロナウィルスの流行」をあげ、コロナ禍での社会的環境の変化が背景にあることをうかがわせる結果となりました。

今号では、支援の声をあげにくいとされる「ひきこもり」を取り上げております。

飯能市のひきこもり相談窓口



お住まいの地区を担当する保健師が、本人や家族の方のお話を伺いながら、今後について一緒に考えていきます。必要に応じて、各種事業や相談機関を案内します。

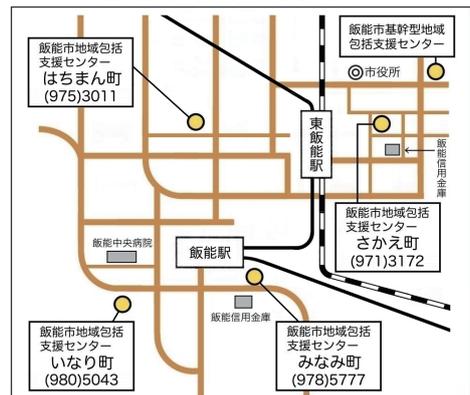
健康づくり支援課

受付時間 8時30分～17時15分

(土・日・祝日除く)

電話番号 042-974-3488

包括支援センターは よろず相談窓口です



市内4ヶ所の
地域包括支援センター



一般社団法人「オープンコミュニティおいでよハウス」
(2022年4月設立) を訪問し、代表の藤島 薫さん (写真左)
にお話を伺いました。

埼玉県のHPにひきこもりの支援団体として掲載されていますが・・・

ひきこもりの方だけを対象としているわけではありません。

人生にはいろいろなことが起こります。友達や家族のこと、学校のこと、職場のこと、生き方のこと、心のこと等々です。そんな時、お茶やコーヒーなどを飲みながら、ゆっくり対話をして、重たかった気持ちが少し軽くできる場所があるといいなと思い、この法人を立ち上げました。「おいでよハウス」は、指導・評価などはせず、お互いの声を尊重する対話の場を大切にしたいと考えています。



飯能市に設立したのは、お住まいが市内だからですか？

自然の中で暮らしたいという思いから飯能に3年前に越してきました。当初は秩父が候補だったのですが職場（東京福祉大学）のある池袋との中間地点の飯能にしました。住んでみて、豊かな自然と人の温かさ、そしてご縁が重なってこの地でやって行こうと思いました。

HPで拝見しましたが、フリースペース以外に、様々な取り組みもされていますね。

「対話（ダイアログ）の勉強会」フィンランド式・しからない子育て「エンジョイ個育て」のワークショップ、不登校のお子さんをお持ちのお母さんが自由に語れる場である「お母さんのお茶会」、不登校の子どもを対象としたプログラム「PONTE」などをしています。今後は更に不登校やひきこもりの方のプログラムや支援者が元気になれるような交流と学びの場なども展開していきます。



玄関先に掛けてある絵（写真右）の説明もいただきました。

理事をされている須田修輔さん（南飯能病院）と

佐藤智恵美さん（にこにこハウス）の3人で将来はこんな

「おいでよハウス」にしたいとそれぞれが描いたスケッチをもとに、プロの画家の方が描いて下さったとのこと。数年前に「聞く力」という本がベストセラーとなりましたが、藤島さんは、まさにそんな感じの方。安心感や自尊心を得られる空間が居場所と呼ばれるようにもなった昨今、そんなスペースが市内に在ることは喜ばしいことと思います。

一般社団法人オープンコミュニティおいでよハウス

〒357-0037 飯能市稲荷町9-15 フォーブル岩沢102

メール: oideyohouse2022@gmail.com

ホームページ: <http://open-community-oideyo-house.com>



おいでよフリースペース

【利用日】 毎週火曜日・金曜日 10時～16時、第1・3金曜日 18時～21時

【利用料】 500円

* 開く曜日は変更する場合がありますのでHPで確認ください。

* 駐車場はございませんので、お近くのコインパークをご利用ください。

ひきこもりVOICESTATIONで検索して当事者・家族・支援者の声を聞いてみましょう。

今、ひきこもり当事者は約100万人以上。親に甘えている？働きたくなくて怠けているだけでしょう？そもそも親のしつけが悪い…、などといった誤解や偏見が世間にはあります。

実際はひきこもり当事者の約8割の方は働いた経験があり、現在就労していない方の約6割が、いつかは働きたいと考えています。

その一方で「生きている価値がない」と自分を責め、生きづらさを感じている方が9割という調査結果が。つまり、ひきこもり当事者は「このままではいけない」「もう一度生き直したい」と思いながら孤独な毎日を過ごしているのです。

また、ひきこもりは家族や職場の人間関係、心の不調、病気、障害の様々な要因が重なったり、いじめやDVなど命の危機から身を守るために、やむを得ず起きることが分かってきました。最近では家族の転勤や介護がきっかけでひきこもるケースも。ひきこもりは誰にでも、どこの家族にも起こりうるものです。

まずは地域に暮らすみんなが、当事者の様々な思いに触れ、ひきこもりへの理解を深め、誰もが生きやすい社会にしていく必要があるのではないのでしょうか？

＜ひきこもりへの理解を深めるためのアニメのナレーションより＞



私はひきこもり状態にある人は「困難な状況に陥ったまともな人」だと考えています。
ひきこもり状態の人たちに向き合って約30年・
斎藤環 筑波大学教授

「8050問題」は、中高年の未婚の子供の「ひきこもり」の長期高年齢化したものと認識されていますが、介護のための離職や、新型コロナウイルス感染症の影響等で子供が失職した場合も高齢の親が世帯の家計を支えるという同じような状況に陥りかねません。ひとり暮らしや高齢者夫婦世帯などであれば、見守りの対象ともなりますが、可視化されず、孤立無援の状態になるのではないのでしょうか。高齢化が更に進む今後、市民、一人ひとりが考えていくべき問題でもあると思います。

*8050問題・80代の親が50代の子供の暮らしを経済的に支えることから生じる諸問題

「ひきこもり」笑顔への一歩～ご家族のためのパンフレット

日本で唯一の全国組織の家族会であるKHJ全国ひきこもり家族連合会

<http://www.khj-h.com> が作成したパンフレットが発行され、右の

QRコードからお読みいただけます。同じ立場や経験等をしたことのある

人たちの言葉は支えになることと思います。家族会に出席できなくても、

相談するところまではできなくても、ご覧になってみてはいかがでしょうか？



地区紹介

南高麗地区民児協

神田 明美
宮寺 早苗

清水 容子

梶田 孝

高橋 清美

横川 礼子
(50音順)



石田 賢一 会長

南高麗地区は飯能市の南部に位置し、東京都青梅市に隣接し成木川から直竹川に沿って集落が発達した山間の地域です。近年、農のある暮らし「飯能住まい」の施策の効果で、現在50世帯以上の方が移住されました。大半が若い世帯で人口の増加と共に、高齢化率が改善されている状況です。

南高麗地区民児協は、各地区担当の民生委員・児童委員5名と、全地区担当の主任児童委員2名で活動しています。月例の定例会議では、主に情報交換の時間を多くとり、各地区のいろいろな課題・問題の共有化をはかっています。それぞれの地区の委員が自由な意見を発言できる楽しい雰囲気の中で取り組んでいます。また、年に2回の自治連南高麗支部と連絡調整会議を開催し、災害時における地域にお住まいの高齢者の方々に対する支援活動の連携をはかっています。

今後の地域の状況としては高齢化が進み、お住まいの方々が抱える課題が多様化し、深刻化すると予測されます。支援が必要な人の身近な相談相手になれるよう、また、いろいろな支援へのつなぎ役ができるよう、住み良い地域にするために努めてまいります。

原市場地区民児協

青木 和子
佐野 純一
中村 芳江

浅見 正
鈴木 伸夫
馬場 定男

柏崎 元一
高野 正義
本橋 薫

倉掛 富幸
高橋 純子
山川 照子

佐藤 宜子
武本 清己
町田 泰宏
(50音順)



町田 和子 会長

原市場民児協は、市街地より西へ小瀬戸のお地藏様を分岐点に、中藤川と名栗川添いに延び、名栗、吾野に次ぐ広大な面積に里山の原風景を残している地域です。原市場小学校、原市場中学校、第二小学校、西中学校に在籍する子供も減少の一途、かつての賑わいも今は昔となりました。

現在、原市場地区は凡そ3,100世帯6,500人を16名（主任児童委員2名を含む）の委員が担当しています。バス停までの足がない、買い物に行けない、具合が悪くなった時に助けを呼ぶ方法、孤独死が心配、渇水期の生活用水の確保等々、山間地ならではの困りごと、生きづらさを拾い上げ共有し、健康で楽しく安心して生活できるように、皆で知恵を出し合い活動しています。原市場民児協は16名がONE TEAMで頑張っています。

生活援護部会

部会長 今川 美雪（精明第2）
副部会長 山下 利明（精明第1）
塩野 典子（名栗）

児童福祉部会

部会長 倉掛 富幸（原市場）
副部会長 小松 啓子（加治東）
荒井 眞里子（美杉台）

4部会の
部会長
副部会長
が決定

高齢者福祉部会

部会長 島田 洋一（飯能第2）
副部会長 小高 正紀（飯能第1）
山岸 文子（加治）

障害福祉部会

部会長 常道 登美雄（吾野）
副部会長 田中 壽見子（飯能第1）
梶田 孝（南高麗）

編集後記

認知症の対応の心得のひとつとして「自尊心を傷つけない」というのがあります。それは「ひきこもり状態にある人」に対しても、また、全ての困難を抱えている人たちに対しても、言えることだと思います。

支援する側・される側と線を引きがちですが、当事者の気持ちを考えることの大切さを改めて感じました。

横田きよ子 小林 弘子



民生委員児童委員の退任と委嘱

<新任> 山川 芳子（飯能第2）
森口 久美子（精明第2）
<退任> 杉山 敏子（飯能第2）
河原 敏夫（加治東）
<死去> 五十嵐 國男（加治東）

民児協事務局職員の異動

<着任> 浅見 弘恵
大野 直哉
<転任> 廣江 暁

